

井原奈津子著 パインターナショナル 2017

みなさんが普段、ノートに書く字はどんな字ですか？わたしは、学生の頃、よく親に「くせ字だ」と叱られていました。今も「その字はなんだ」と言われるほど、恥ずかしながらくせ字の持ち主です。そして、いまはもうすっかり自分の字というものが定着しましたが、小学生や中学生の頃はまだ自分の字が定まらず、「いかにかわいい字が書けるか」かわいい字を書くまわりの友だちや先輩の字をこっそり真似してみたり、授業に来ていた先生みたいなきれいな字が書きたいと真似してみたり、と当時のわたしの字はくせ字どころかだいたいづ字がさまよって迷子だったと思います。字がきれいな人も、字が汚い人も、それはひとつの個性、特徴で、誰ひとり同じ字を書く人はいません。そう思うと、みんなくせ字の持ち主なのかなと思います...。さて、今月はそんなくせ字の本を紹介します。しかも「美しい」くせ字の本です。しかし、この本でいう「美しい」の意味は、「そのものからなにかを感じて心に響く」という意味での「美しい」です。素敵な捉え方ですね。

この本を書いた著者の井原さんは、プロフィールに「くせ字愛好家」とあります。小さい頃から人が書いた字がすきで、気になった字はスクラップしてとっている、くせ字コレクターです。この本を読んでも字に対する執着がものすごく、ときには、道端で拾っただれのものかもわからないノートの切れ端、図書館で拾った書き込みがされた古い本など、ちょっとびっくりするようなコレクターも...！字そのものへの執着もすごいのですが、それ以上に、その字を書いた人への執着もすごく、どうしてこんなくせ字が生まれたのか、どうしてこの人はこんな変わった字をかくのかという著者の推理と考察がとてもおもしろく、その人の背景、歴史が、その人がかいたくせ字とともに楽しめます！まさに探偵のようなその調査はただ考察するだけでなく、ときには、会社や事務所まで電話してその字を書いた人が誰かを問合わせたり、本人に直接聞いてみたり...著者の愛ゆえの執着に驚かされます！また、著者は、障害を持った子たちが描いた作品、アウトサイダーアートにも関心があり、この本のなかにも障害を持った子たちが書いたくせ字や作品ものっています。

レディー・ガガや松本人志、韓流スターなど、みなさんがよく知っているあの有名人のくせ字もたくさんのおいてありますよ。なかでも、わたしが印象的だったのは、「こわいな～こわいな～」でおなじみの稲川淳二さんのくせ字！普段、TVやラジオでホラー話をされる場面しかおみかけしたことがなく、初めてわたしは稲川さんの字をみました。稲川さんは全国をまわり、集めた怖い話をノートに記録しているのだそうで、そのノートがこの本には載っているのですが、びっくりしました！とても端正で手書きとは思えないような妙に整っている字！そして、その字の色は全部血のような赤オレンジ！それこそこわいな～こわいな～です！（みなさんにもぜひ見て欲しい！）この稲川さんの字は、「どうしてこんな字が書けるんだ！」「とても綺麗！」「稲川さんの字めっちゃ好き」とツイッターでも話題となったそう！どうしてこんな字を書くのか、そしてどうして血のような赤色なのか...ここでも著者は調査、推理していますよ！ぜひ読んでたしかめてみてください！この字には稲川さんの人柄も現れているんだなと、わたしは稲川さんがこの字を書く理由を読んで稲川さんのことがとってもすきになりましたよ！ほかにも少女漫画のセリフに使われている字、映画字幕の字から一般の人が書いた、カレー屋さんや喫茶店のメニューの字やギャル文字まで...著者が集めに集めたいろんな人たちのくせ字の数々をとくにご覧あれ！くせ字を通して、その人、その人の背景まで知ることができるすてきな1冊です！そして巻末には、有名人のくせ字を真似して書いてみるのできる「くせ字練習帳」ドリルも！ぜひやってみよう！わたしのくせ字も井原さんに見てもらいたいな...なんて考察されるんだろう...ちょっと怖いですが！